

上部消化管内視鏡検査時の食物残渣貯留例からみた胃不全麻痺の検討

本学で実施しております以下の研究についてお知らせいたします。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

| | |
|-------------|---|
| 研究課題名 | 上部消化管内視鏡検査時の食物残渣貯留例からみた胃不全麻痺の検討 |
| 倫理審査受付番号 | 第 3374号 |
| 研究期間 | 2019年11月倫理審査承認日～2026年 3月31日 |
| 研究対象情報の取得期間 | 下記の期間に当院にて上部消化管内視鏡検査（EGD）を受けられた方（全診療科） 2015年12月 1日～2025年12月31日 |
| 研究に用いる試料・情報 | カルテ情報 |
| 研究概要 | （研究目的、意義） 胃不全麻痺の実態を明らかにし、より広く医療従事者や患者にこの疾患を啓発し適切かつ迅速に診断・治療していくこと |

が実地臨床現場で求められています。

我々の先行研究から少ないながらも胃不全麻痺患者が本邦でも存在することが示唆されており、おそらく日本人でも胃不全麻痺はある一定の割合で存在し、患者のQOLを低下させること、また医療経済の観点から今後、欧米と同様、本邦でも注目され、臨床的に問題になってくることが懸念されています。

以上の事から、この問題点に着手する意義は大きく、今回我々は「日本人でも胃不全麻痺はある程度の割合で存在する」との仮説にもとづいて本研究を計画しています。

我が国における胃不全麻痺の研究はなく、この意味で胃不全麻痺研究の緒を開く独創的で斬新なものであると考えています。

①どの程度日本人で上部消化管内視鏡検査（EGD）時の食物残渣貯留例がいるのかを調査し、②残渣貯留例と非残渣貯留例での背景因子を明らかにすることにより、この問題を解決する手がかりを得ることを目的とします。

（研究の方法）

2015年12月1日から2025年12月31日までに当院でEGDを施行が見込まれる50000件のうち、EGD時に胃内に食物残渣の貯留を認めた患者の背景因子を後方視的（既に行われたことをさかのぼって調査すること）に検討します。

上部消化管内視鏡検査（EGD）時の食物残渣貯留は胃不全麻痺を示唆する徴候であることが知られています。

本研究で胃不全麻痺の実態を明らかにするために、上部消化管内視鏡時の食物残渣貯留例から胃不全麻痺を推測します。食物残渣貯留のある患者群とない患者群に分け、その背景因子について2群間で比較検討します。調査項目は年齢、性別、body mass index, 飲酒、喫煙、1型糖尿病、2型糖尿病、逆流性食道炎の有無、二次的要因（パーキンソン病、がん、ウイルス性疾患、結合組織疾患）の有無、オピオイド、グルカゴン、ペプチドI作動薬の内服、カンナビノイドなどの胃排出に影響を及ぼす薬剤の服用、血清プロラクチン値、脳血管障害、錐体外路系疾患の有無、甲状腺機能低下症、臨月経異常、胃石の診断の既往などを調査します。

（個人情報の取り扱い）

収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した（匿名化といいます）上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

本研究に関する 連絡先

兵庫医科大学病院 消化管内科
三輪 洋人（研究責任者）
富田 寿彦（研究担当者）

TEL | （平日 9 : 00 ~ 16 : 45） 0798-45-6662
（上記時間以外） 0798-45-6111（消化管内科当直）